

動物の診察室から

○ 27 ○

ブラッド君は、体重が四十四キの黒いラブラドルレトリバーで、今月五歳の誕生日を迎えます。ブラッド君はもう二頭のメスのラブラドル「ラファちゃん」と一緒に飼われていて、二頭ともとても性格のよいワンちゃんです。

変が起ったのは、今年二月、右の下顎リンパ節だけ大きくはれてきたのでした。病院での針生検では診断はつきませんでした。その日から投与した抗生剤によく反応して、すぐに小さくなっていき



3回目の抗がん剤注射に来たブラッド君

がんとの闘い

す。

飼い主のお姉さんは、ブラッド君とラファちゃんをとともかわいがってお

手術や薬 治療さしまさ

間に一回、半年間抗がん剤の点滴をする

ました。抗生剤だけの治療でよくなったため、感染性のリンパ節炎だったのでしょうとお話していただきました。四月の中旬、急に左下顎リンパ節がこぶし大にはれてきて、そのほかのリンパ節も大きくなっていました。

検査を依頼しました。その結果はリンパ腫でした。リンパ腫とは、リンパのがんのことです。治療は抗がん剤になります。動物の体にてきる腫瘍は、大きく分けて、良性的のリンパ腫と悪性のリンパ腫があります。このタイプは、リンパ腫の中でも、化学療法によく反応するタイプです。

けられ、電話の向こうで泣いているのがわかりました。でも、お姉さんはブラッド君のために化学療法を選択され、すぐに抗がん剤の投与が始まりました。一週

ました。抗生剤だけの治療でよくなったため、感染性のリンパ節炎だったのでしょうとお話していただきました。四月の中旬、急に左下顎リンパ節がこぶし大にはれてきて、そのほかのリンパ節も大きくなっていました。全身のリンパ節がはれる場合には早急な対応が必要です。リンパ節の一部を採取し、検査機関に

腫瘍を抽出する方法、抗がん剤で腫瘍をたたく化学療法、あと放射線療法と、やはりショックを受

その結果をブラッド君がお姉さんに電話をする

がんとの闘いの第一歩

